

令和5年度 市民の声一覧(下半期公表用)

受付月	区分	件名	市民の声	回答(対応)内容	担当課
1月	防災・災害対応	能登地震に関する被災者に対する応援について	<p>東日本大震災等の大規模震災で問題になったのが、被災者のケアです。被災場所の避難所に長期間プライバシーもない状況で生活するのは非常にストレスとなり、震災関連死者が多く発生する要因ともなります。被災者のプライバシー確保や度重なる余震のストレスからの解放、高齢者の通院や食料等の安定供給等を一気に解決する方法が一つだけあります。但しこれについては桑名高知市長をはじめ県下首長様、濱田高知県知事そして国や輸送機関との迅速な連携が必要となります。詳しい内容については書ききれないので簡潔に申し上げますが、高知県内の空き家を被災者ご家族に年間無償提供します。費用は国が主体として拠出していただき、家族などの移送費用については、国内航空会社、鉄道各社にフォローいただくというやり方です。災害場所の早急な復旧及び被災者の安全安心な生活を1日でも早く取り戻すためには一時的にでも被災場所からの離脱が必須となります。何卒検討していただければと思います。</p>	<p>令和6年1月1日に発生しました、令和6年能登半島地震においては、最大震度7の揺れにより、能登地方を中心に甚大な被害が発生しており、本市としましては、令和6年1月11日から石川県輪島市へのトイレットレター派遣を始めとする様々な被災地支援をしているところです。さて、能登半島地震の被災者への空き家の無償提供についてご提案いただきましたが、現状における対応としましては、国土交通省から各自治体に対して、被災者の住宅を緊急に確保する必要があるため、被災者への公営住宅等の提供について依頼があったことから、本市としましては、被災者への支援を速やかに行うために、使用料等は全額免除の上で、被災者に市営住宅を提供できるよう対応することとしております。なお、ご提案いただいた空き家の活用については、今後、被災者への住宅に関する支援を検討する上での参考とさせていただきますと存じます。今後も被災された方々の守った命を繋ぐためにも、引き続き被災地からの様々な支援要請に速やかに対応できるよう準備して参ります。</p>	防災政策課
1月	防災・災害対応	地震対策について	<p>県外から引っ越してきて感じたことです。マンションや保育園、学校でも定期的に避難訓練をしていて、災害に備えているんだなと感じました。保育園の避難先が水再生センターの屋上になっていて、2階に食べ物などの備蓄がされていました。園では、園児を連れて避難できるのは距離的にも水再生センターがベスト。小さな地震なら、近隣の避難先のビルでも対応できるかと思いますが、東日本大震災の津波は予想をはるかに超えました。3階程度の避難場所でも小さな命を守れるのか心配です。2階なんて浸水リスクが高く、備蓄も意味ないかと思えます。他市も訪れましたが、高知市より畑が広がり、ポツンと避難所があって、高齢社会なのに避難所まで辿り着けるのか疑問に感じました。他県より防災の意識は高く、備えている部分は多くあるとは思いますが、今ひとつ不足している気がして、結局命が助からないんじゃないかと思ってしまう。浸水区域となっている地域だけでも、一刻も早く耐震性のある高い建物を作ってほしいです。</p>	<p>ご意見の中にありました水再生センターですが、本市にて避難場所として指定しておりますのは「下知水再生センター」と「潮江水再生センター」の2カ所であり、〇〇様のお住まいの地域と、ご意見の中にありました備蓄品の状況から、「〇〇水再生センター」であると想定して回答させていただきます。同センターにつきましては、令和2年度に竣工された、耐震基準を満たした建物となっており、一般的なビルよりも階毎の高さが高く設計されています。また、現在想定されている最大クラスの津波シミュレーションでは、同センター周辺の津波想定浸水深が1～2mとなっていることから、避難場所となっております同センター屋上(地面からの高さ約14m)は、津波避難に対して十分な高さがあると考えております。同時に、〇〇水再生センター2階にありますが備蓄品につきましても、保育園が同センターと交渉し備蓄しており、前述の津波シミュレーション結果に基づきますと、活用可能と考えております。詳しくは、高知市地域防災推進課ホームページにて、「津波避難ビル一覧」や「津波避難マップ」を公開しておりますので、是非ご覧ください。併せて、津波避難ビルなどの緊急避難場所をお手元のスマートフォンで確認できる「高知市津波SOSアプリ」につきましても、インストール方法をご紹介させていただきますのでご活用いただければ幸いです。高知市では来る南海トラフ地震に備え、高知市津波避難ビルガイドラインに基づき、市内全域で339施設の津波避難ビルを指定しており、〇〇様がお住いの昭和小学校区では、40施設を指定しております。小さなお子様はもちろん、津波から市民の皆様の命を守るために、今後も継続して地震や津波対策を進めてまいりますので、ご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。〇地域防災推進課ホームページ：https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/〇高知市津波SOSアプリ：「App Store」(iPhone)または「Google Play」(Android)で「高知市津波SOSアプリ」と検索し、アプリをインストールします。</p>	地域防災推進課
1月	防災・災害対応	防災備蓄庫について	<p>私は、朝倉の〇〇地区に住んでいますが、防災マップを見ますと鏡川の決壊で水害が想定されています。自宅からの避難場所である高知大学、朝倉さわやかセンター等は、土讃線の南側になりますので、老人にとって約1.5Kmから2.0Kmを避難するのは難しいと思います。災害に見舞われた時には、避難する場所が遠過ぎます。ライフラインが途絶えた時の食料などを備蓄する備蓄庫もありませんので、最低でも備蓄庫の設置をご検討願いたいです。以前私が住んでいた〇〇市では、避難場所の他にも自治会単位で備蓄庫を設置していました。</p>	<p>本市では、発災後3日間は津波浸水や道路等の交通インフラの被災により、発災時指定避難所への物資輸送が困難になることを想定し、必要な場所(避難所)に必要な量を備蓄するという「分散備蓄」を基本に取り組んでいるところです。また、発災時の不測の事態により、物資不足に陥る指定避難所が発生した場合は、長浜学校給食センター内の備蓄倉庫より配備を行う予定です。このようなことから、指定避難所以外に市として備蓄庫を設置することは計画しておりませんので、ご理解をお願いしたいと思います。また、本市としましては、本市の被害想定の大きさから、被災者の皆様に必要な量を全て備蓄することは困難なことから、市民の皆様にご家庭での備蓄をしていただくよう防災啓発にも取り組んでおります。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。なお、避難の考え方としまして、洪水や土砂といった風水害は、津波のような突発的な災害と異なり、台風の接近など、事前に被害想定の情報収集が可能です。また、気象台も避難のための警戒レベルを5段階に分けて発表しており、避難までの時間的猶予は一定確保が可能です。その際、安全が確保できる場所であれば、指定避難所に限らず、近くの親戚・知人宅や、ご自宅の建物に危険がなく生活できる状態であれば、在宅避難をするという選択肢もありますので、ご検討ください。</p>	防災政策課